

広報TSB

第16号

令和元年度 後期

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE

第3期 外部評価に向けて

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

評価室長 佐藤靖子



評価室からお話しさせていただきます。

本学は、在学生・地域および高校生の進学先として魅力ある学園となるべく、創立者の意志を継承しながら時代とともに変遷してまいりました。これまで、家政学部の中に位置付けていた生活美術学科は、二〇一九年四月から美術学部となり、より専門性を重視した学部として羽ばたき始めました。この改革は、大学独自の方針として進めましたが、学生支援、学修環境、教育課程などの項目については規程があります。文部科学省による大学の設置等に係る認可の基準の他、厚生労働省による栄養士・管理栄養士および保育士などの資格取得のための法令を遵守しなければなりません。大学が、どのような理念のもと教育を行い、どのような基準で運営しているかは、外部評価機構によって評価を受けることが必須となっております。

本大学は、公益財団法人日本高等教育評価機構より、大学機関別認証評価（以下、「外部評価」という）を受けております。この外部評価は、七年以内ごとに受審することになっており、前回は二〇一三年（平成二十五年）に受審して、適合の評価をいただきました。今年は七年目にあたり、受審する年度となっております。しか

し、この評価基準は、二〇一八年から第三期に入り改革が行われ、前回は四つの基準に対して二十二項目、評価の視点五十一に対しての評価が行われましたが、今回は、基準が六つとなりました。そして、二十三項目、評価の視点が五十六となり、項目・視点が追加されています。特に学修と教授の基準が、学生、教育課程、教員・職員の項目に細分化されています。さらに、内部質の保証が新基準として追加されました。六つの基準の他、独自基準および特記事項が設けられています。

本学は、総務、学務、学生支援など十二の組織で構成されており、組織に属する各種委員会が三十一設けられ、これらが滞りなく機能しております。二〇一九年度は学習支援センターの設置、また、毎年、学生による授業評価も行われて学修環境の改善が図られ、学生の声が大学に届くよう配慮されています。これまでは三年ごとに自己点検報告書を作成して、教育の質の保証・学士課程教育の構築など自己点検評価を行ってありますが、二〇一九年には、新評価基準に準じた自己点検評価報告書を作成いたしました。

二〇二〇年度に外部評価を受審するにあたり、評価室は、二年前から準備に入っております。すべての教職員は、いずれかの委員会に所属して少なくとも毎月会議が行われています。各会議では議事録が作成され、これが重要なエビデンス（証拠）となります。現在、各委員会の報告が提出されており、今後、エビデンスとの照会を行い、六月には評価機構へ報告書を提出して十月に実地調査が行われます。

本学は、このように内外の評価を受け、一人ひとりの学生により良い環境を提供するよう努力してまいりますので、魅力ある学園となるよう、よろしくお願いいたします。



大学家政学科

短信



令和元年度秋・冬の家政学科の様子をお伝えします。

十月一日に登録販売者試験の合格発表があり、健康栄養学専攻学生十一名が合格しました。「薬に強い栄養士」を目指して、一昨年度より試験対策ゼミが開講されていますが、昨年より飛躍的に合格者が増えました。

十月二十一日の大学祭では、今年も健康栄養学専攻の学生たちが運営の主力を担いました。恒例のファッションショーは、服飾文化専攻の学生スタッフを中心に、例年に劣らぬ立派な公演となりました。さらに二月十四日にエルパーク仙台で外部公演も開催されました。今回のショーには約五十名の学生がスタッフ・デザイナー・モデル・スタイリストで参加し、とても充実した内容になりました。開催に先立ち、スタッフ学生がテレビ・ラジオを通して広報を務めました。

十一月九日にはファッションデザインモデリストの平塚聖子先生をお招きして「クリエイションとコミュニケーションーファッションデザインの世界ー」と題し、TSB講演会「〇一九を開催しました。ミラノ・パリ・ニューヨークでのコレクションの現地業務に従事された先生のお話は、服飾文化専



▲ファッションショー外部公演

攻の学生にとって大きな刺激になりました。

二月九・十六日の二回にわたり、一般参加者のべ五十名を対象とした薬膳調理実習がエルパーク仙台で開催されました。これは「生文大薬膳プロジェクトを通じた学生教育」の成果発表といえるもので、専門家の指導の下、健康栄養学専攻および短大食物栄養学専攻の学生たちが実施しました。

また、日本家政学会東北・北海道支部第六十三回支部総会・研究発表会において、服飾文化専攻四年の熊谷茉莉さんが学生奨励賞を受賞しました。

最後に人事異動ですが、三月末日付で土井豊教授・福岡敦子准教授・千鳥恵里花副手が退職されます。先生方の本学の研究活動へのご尽力に深く感謝申し上げますとともに、今後のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



▲生文大薬膳プロジェクト

大学美術表現学科

短信



令和元年度後半の活動は、美術鑑賞旅行(二年次)、博物館実習旅行(三年次)、大衡村ふるさと美術館の企画イベン

ト、大学祭テーマ「乱華」、第四十六回大美学科内コンクール(最優秀賞は岩渕怜奈さんの陶芸作品組皿「大地の残飯」、優秀賞は、田端佳菜子さんの色漆による作品「無邪気」、遠藤未菜さんの陶芸作品重箱「ちくちく」、工藤陽輝さんの描画作品「ねぞべる猫」他、絵出品点数四十点)等、学生の研究発表活動が盛んに行われました。

四年間の集大成となる第五十二回卒業制作展は、研究生の作品も展示され例年通りせんだいメディアテークを会場に行われました。様々な技法で制作された新鮮な感覚の作品は、明るくかつ素晴らしいという声も聴かれ、多くの来場者に感動を与えました。

令和元年度後半の、在学生による創作、発表活動の一端を紹介します。

七月 東北生活文化大学学生二人展「暗晦怪獣」穂積雄介さん、寺澤大和さん(中本誠司現代美術館)、版ゼミ脱はだか展(ギャラリーエチゴ)、ギャラリーターンアラウンド企画、第四十五回大美コンクールターンアラウンド賞受賞者展「Kanshin-uo-mor-sa」早坂明音さん、松嶋佳菜子さん、佐藤実令さん

九月 宮城県芸術祭絵画部公募展で穂積雄介さんが入選、彫刻部公募展で寺澤大和さんが最高賞の宮城県芸術祭賞を受賞しました。(せんだいメディアテーク)

十月 大衡村との地域連携による「東北生活文化大学美術学部美術表現学科作品展」学生によるプロジェクト「マッピングによるけしの絵付けデザイン投影、傘に映像を投影する作品(情報デザイン)、風呂敷(染織)、箸置き、ペーパーウェイト(陶芸)、その他に卒業生の作品も展示されました。

(大衡村ふるさと美術館)

十一月 「泉区民文化祭」

大美コンクール作品展示、

ワークショップでは参加型ガラ

スアートが行われ、学生が積

極的に観客と接する姿が見

られました。(イズミティ21)

「第四十六回大美学科内コン

クール受賞者作品展」(大学

六号館ギャラリーCORE)

一月 「情報デザイン研究

室プロジェクトシンマツピング作

品展(伝統こけし、創作こけ

し、和傘)」(大学六号館ギャ

ラリーCORE)

二月 「壁画ゼミナール展」佐藤李菜さん、川角奈々さん、

佐々木瑞貴さん、佐藤ねいねさん、遠藤はるかさん、遠藤未

菜さん(中本誠司現代美術館)、「第三十九回版画ゼミ

ナール展」(東北電力グリーンプラザ)、「陶芸ゼミナール展」

(メリラボ)

また本年度も地域連携事業で学生・教員が活躍。全国、

地域イベントに参加しました。東北学院大学とのコラボ企画

で仙台北口初売り福袋企画に参加し、シルクスクリーンで自

作したトートバックを売り出しました。また地域の情報をパン

フレットにし、そのデザインを担当しました。その他教員によ

る個展、グループ展出品、学会活動。卒業生の河北美術展等

公募展、グループ展や個展での受賞、発表等、制作・研究活

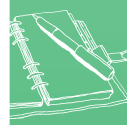


▲第52回卒業制作展

動も充実し、大いに在学生の刺激になっています。

短大生活文化学科

短信



今年度も、学生たちがそれぞれ自分の目標に向かって努力し、無事に過ごすことができました。後期の主な行事を振り返ってみたいと思います。

学科の行事

○十月十九日・二十日 大学祭

食物栄養学専攻はワクワク食堂「塩エコ亭」、子ども生活専攻は「ファンタジーランド」を、学生が企画・運営しました。

食物栄養学専攻

○八月・十二月 栄養士基礎演習(一年生)

○六月・十一月 給食管理実習Ⅲ(校外実習)(二年生)前期に引き続いて、保育所、陸上自衛隊駐屯地、航空自衛

隊基地、特別養護老人ホームに分かれて、五日間の校外実習が行われました。

○一月三十日 校外実習報告会(一・二年生)

子ども生活専攻

○十月 幼稚園実習(二年生)

○九月・二月 保育所基礎実

習・幼稚園基礎実習・施設見学実習・子ども園見学実習(二年生)

○一月二十二日・二十三日

附属ますみ幼稚園の園

児を招いての活動(運動

遊び)を行いました。短

大と附属幼稚園が連携

して、双方にとって有意

義な教育活動を行っています。

○一月三十一日 幼稚園

教育実習報告会・保育

実践報告会(一・二年生)

地域貢献活動

地域への貢献も本学の使命の一つです。後期に学生ボランティアが参加したものを紹介します。

○十月二十六日 「錦が丘ビルサイドモルイイベント」(食物

栄養学専攻・子ども生活専攻)

○十二月十五日 「丸森町大内地区への災害支援ボランティア」(食物栄養学専攻・子ども生活専攻)

○十二月十七日 「ますみ幼稚園発表会手伝い」楽々々

ホール(子ども生活専攻)

○十二月二十一日 「加茂中学校校区学校支援地域本部十

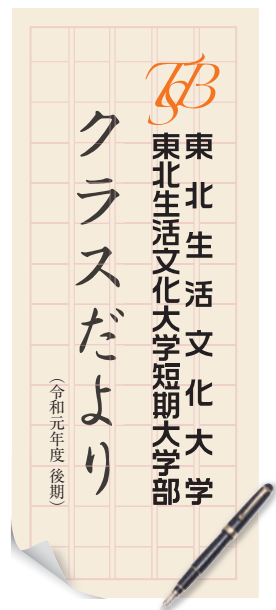
周年記念行事」(食物栄養学専攻)

○三月二十三・二十六日 「ますみ保育園学年末業務手

伝い」(子ども生活専攻)



▲ファンタジーランド「ミシマレンジャー」



大学服飾文化専攻 1年

この一年のクラスの状態を振り返って、各個人のキャラクターを多方面から把握できたことが収穫でした。そして、なによりも各人が大きく体調を崩すこともなく、無事にここまで来たことに一安心しているというのが正直なところです。四月からは皆、大学二年生になるとともに、成人を迎える年齢にも達しますが、大学生活をマラソンに例えると、単調な上り坂のコースが続く期間になります。ここで淡々とペースを維持し走り抜けることが、良き大学生生活を過ごせるか否かの分かれ目になります。多くの時間を共に過ごし、適切なアドバイスをすることで、各人の成長の過程に立ち会えることが楽しみです。

大学服飾文化専攻 2年

二年次が終わり、四月から三年次が始まります。これに伴い、コース制が導入されます。一月のホームルームで出席した学生に周知しました。また、必修の「専門研究」が四月から始まり、各研究室に分かれて指導を受けることとなります。先日行われたエルパーク仙台でのファッションショーでは四名がデザイナーやモデル、運営スタッフとして活躍しました。被服の作品やパフォーマンスは驚くほど、異彩を放っており、将来の大きな可能性や夢の実現を感じさせてくれました。教員を目指している学生には社会福祉施設での介護等体験があります。全員が一つずつ段階を踏んでいつて将来の就職へとつなげていってほしいです。

大学服飾文化専攻 3年

卒業まで残すところ、一年となりました。後期からは「課題研究

I」の授業がはじまり、配属先の指導教員のもと、調査や実験などに取り組んできました。一月二十二日には発表会を開催し、半年間の研究成果の報告を行いました。

三月には、会社説明会が解禁となり、いよいよ来春の卒業に向けて、就職や進学などへの準備も本格化し、これから慌ただしい日々を過ごすことが予想されます。そうしたなか、何をすれば良いのか分からず、気ばかり焦り、卒業後の進路に悩む学生も見受けられます。今後、学生一人ひとりが、より良い将来の方向性を見出せるよう、支援していききたいと思います。

大学服飾文化専攻 4年

早いもので卒業の時期を迎えました。後期は、各自が卒業と資格取得を目指した単位の修得に主に励みました。四年間の集大成でもある課題研究Ⅱに取り組んだ学生は、十二月に課題研究発表会に臨み、一年半にわたる研究成果を報告いたしました。学習以外の活動では、大学祭や学外でのファッションショー、大学生協の活動等に参加する学生もいて、人数は少ないクラスですが、それぞれが充実した毎日を送っていたようです。あとに残り少ない学生生活となりましたが、一日一日を大切に生活してほしいと思います。

大学健康栄養学専攻 1年

早いもので大学生活の一年が過ぎようとしています。大学行事の家政特別セミナーでは管理栄養士として活躍されている卒業生から貴重なお話を聞き、また四年生の課題研究発表会を聴講することで少しずつ将来の夢に向かって動き始めていると思われます。大学祭やクリスマス行事などの学友会活動では意欲的に参加する学生の姿も見られました。四月からは一年生になり、専門科目が増えて課題などが多くなります。今一度、生活習慣を見直す時間を持つて頂き、目標に向けて前向きにそして、健康面にも気をつけながら学生生活を送ってほしいと願っています。

大学健康栄養学専攻 2年

健康栄養学専攻二年生は、一〇〇食の給食管理実習が始ま

り、毎回テーマを決めて献立を考え実習を行いました。これまでは、四〜五人分の調理実習であったため、大量調理に向く食材や献立などを学びながら臨んだことと思います。栄養士・管理栄養士になるためには、まず基本的な調理と対象者に合わせた献立作成ができなければ指導には結びつかないのです。また、九月には、「ロフト」の企画による料理形態に合わせた箸置きを作製するなど、五〜六名の学生が積極的に参加してくれました。自分の可能性を知る上でも、多くの学生が参加してくれることを期待しています。

大学健康栄養学専攻 3年

三年生は、十一月までの間に「給食管理臨地実習」を行いました。実習では、学校や事業所など学外の給食施設にて、栄養士・管理栄養士の業務を学びました。実習を通して、給食の運営や管理、食品衛生に関する業務の取り組み方、スタッフとのコミュニケーションの取り方などを幅広く体得しました。

卒業後の進路に関する動きも見られます。二月には、就職活動対策セミナー、公務員対策講座、管理栄養士国家試験の模擬試験が行われました。三月から就職活動が本格的に始まります。三年生全員が、自分の希望する進路に進めることを願っております。

大学健康栄養学専攻 4年

十二月に課題研究発表会があり、一年半かけて取り組んできた内容をそれぞれ発表しました。立派なプレゼンテーションや質疑応答をする学生を見て、四年間の成長を感じました。就職率については例年並みですが、百パーセントを目指して引き続き指導いたします。学生においては三月の国家試験に向けて頑張っております。二月の頑張り次第で結果は変わってきますので、最後まで諦めずに勉強をさせたいと思っております。

保護者の皆様もどうか温かいご支援のほどを宜しくお願いいたします。

大学美術表現学科 1年

美術学部美術表現学科が新設され、一年が経ちました。学生たちは友達もでき、大学生活にも慣れてきた様子です。一年次は、必修科目としてアート・工芸・デザイン・メディア芸術の分野を広く学びます。今年度からは、地域創生演習も始まりました。自らが暮らす地域を主体的に創っていくために身の回りの気になることを調査し、美術を通して問題解決を考えます。最初は戸惑っていた学生たちも演習最後の発表では、調査研究する姿勢を身につけていました。二年次からの大学生活も一日一日を大切に過ごして欲しいと思います。

大学生生活美術学科 2年

昨年十月の大学祭では二年生も大活躍しました。学科内コンクールで作品を発表する学生、実行委員会として先輩後輩とともに頑張った学生、ポスター・パンフ等のデザインも良かった。十一月の『第四十回仙台市泉区民文化祭』でも有志が集い、大きな切り絵を窓に固定する形態「ガラスアート」を制作・展示しました。寸法は二メートル×五メートル、素材はカラーセロファンと黒ラシャ紙。お客さん参加型のワークシヨップです。完成が近づくとつれ、イズミティ21場内に優しい色の光がたくさん差し込みました。

大学生生活美術学科 3年

三年生の一年間は、より専門的な内容に取り組み、多くの知識や技術、表現力が身についたことでしょう。新学期からは最終学年、卒業に向けて何かと忙しい時期に入ります。通年で取り組む卒業制作は、これまで大学で学んできたことの集大成となります。大きな作品や難しい表現に挑戦することも大いに結構、試行錯誤しながら努力を積み重ね、来年二月のせんだいメディアテークでの卒業制作展に相応しい作品が完成することを期待しております。

また、就職活動に先立ち、学内でも就活直前セミナーや公務員試験対策講座などが開催されます。是非それらを有効活用し、万全の態勢で臨んでほしいと思います。

大学生生活美術学科 4年

四年次後期は卒業制作展の準備、就職活動等、慣れない学外での活動にも積極的に参加する姿が見られ、四年間の成長を実感することができました。二月七日から十二日には、これまでの研究成果を発表する場として、第五十二回生活美術学科卒業制作展が開催されました。展示の様子は各報道機関でも取り上げられ、多くの方にご来場いただきました。

今年度の就職内定状況は、前年度よりも好転の兆しが見られます。忙しい日々から解放されたばかりですが、四月からは新天地での生活が始まります。本学での学びを活かし、一人ひとりが活躍することを期待しています。

短大食物栄養学専攻 1年

食物栄養学専攻一年生は先春に比べ大分顔つきがしっかりしたように思われます。友人同士教え合い、先生方に質問しながら、勉学に取り組んでいるようです。また、各種ボランティア活動にも積極的に参加してくれています。時に応募者多数のため、次回以降の活動に回ってもらうこともあり、担任として嬉しいかぎりです。

一年生たちは後期試験を終えて、まずはほっとしていることでしょう。しかし、この春休みにはもう就職活動がスタートします。栄養士という夢に向かって、校外実習や就職活動に自発的に取り組んでくれることを期待しております。

短大食物栄養学専攻 2年

十月の大学祭では、企画や運営など二年生が中心となり、健康をテーマに取り入れた模擬店「ワクワク食堂・塩エコ亭」を出店しました。当日は一年生の協力も得て、多くの来場者に喜んでもらうことができました。十二月には専門知識の実力を試す機会でもある「栄養士実力認定試験」、そして一月には校外実習の成果を報告する「校外実習報告会」を実施しました。さらに二年生の後期はこれらの行事と並行して就職活動もありましたので、かなり多忙な日々でした。

二年間という短い期間ではありましたが、学生それぞれに大きな成長があったと思います。春からは就職や進学などいろいろですが、これからのさらなる活躍を願っています。

短大子ども生活専攻 1年

一年生の後期は、大学祭でのファンタジーランドの準備から始まりました。劇の脚本や小道具、装飾、遊びコーナーなどをクラス全員で協力して作り上げました。一から準備をするのには様々な苦労があったようですが、この経験が将来、保育者として必ず役に立つ日が来ると思います。また、ボランティア活動や障害児入所施設への見学実習、短期大学部附属すみ幼稚園・保育園での基礎実習を通して、保育の実践力も着実に身につけてきました。

二年生になると、あつという間に本実習が始まります。クラスの仲間同士で支え合い、励まし合いながら実習を乗り越え、保育者になる夢が実現することを心から願っています。

短大子ども生活専攻 2年

後期の子ども生活専攻二年生は、短大最後の実習となる四週間の幼稚園実習から始まりました。学生たちはこれまでの実習の集大成として、できるかぎりの準備をして臨みました。日々の日誌や指導案作成など厳しい課題を乗り越え、子どもたちとの素晴らしい時間を過ごすことができ、保育者として大きな成長を遂げることができました。

短大の学びのまとめとして行われた実習報告会では、自分たちの経験を振り返りながら、現場で学んできたことを後輩たちへ熱心に伝えていく姿が見られました。

実習後には、休む間もなく就職活動に取り組みました。学生たちは自分の将来や進路について真剣に悩みながらも、自ら社会人としての一歩を踏み出そうとしています。様々な困難があっても、短大での学びを生かし力強く乗り越えてほしいと思います。それぞれが選んだ新しい道で、大いに活躍してくれることを心から願っています。

ワクワクぷろじえくと

—地域連携活動—



「ワクワクぷろじえくと」とは、各学科専攻の学生と教員がタッグを組み、専門分野を生かして“まちに住む人がワクワクできるような地域連携活動”です。

親子で銀鮭を料理して 食べよう



この料理教室は、虹の丘児童センターとの共催で、健康栄養学専攻の食物学研究室（深澤講師）が、昨年度から「親子で日本の文化に親しもう」をテーマに行っています。

のびのびくらぶ 公開講座「陶芸教室」



三島学園子育て・家庭支援センターののびのびくらぶの公開講座において、陶芸教室「粘土でつくろう～葉っぱのお皿づくり～」を実施しました。

粘土で作った 金魚の絵付け体験



虹の丘・みずほ台の夏祭りで、美術表現学科の「粘土で作った金魚の絵付け体験」を実施。学生たちが作った樹脂粘土の金魚型キーホルダーにアクリル絵具で仕上げをしてもらいました。

いい日いい汗 栄養まつり



この事業は地域住民を対象に、栄養面の改善や健康面の向上を目指すものです。学生スタッフは、主催者の業務補助を行い、地域住民の健康の維持、増進に関する活動に関わり、食育ステージでの発表も行いました。

仙台ロフト×TSBコラボ企画 「食卓を豊かにしよう！」



仙台ロフトと本学のコラボ企画を開催。今回は健康栄養学専攻の学生たちが「ワクワク手作り教室～食卓を豊かにする箸置き・ランチョンマット作り～」を実施しました。

さかな丸ごと食育プログラム～ 丸ごとイワシ料理を作って食べよう～



食物栄養学専攻が、虹の丘児童センターの小学生を招き開催しました。この事業は、NPO法人食生態学実施フォーラム主催の「さかな丸ごと食育」活動の一環です。

「泉ヶ岳トレイルラン大会」 スポーツ栄養ブース



今回、スポーツ栄養研究室が泉区産の食材を使って、リンゴワッフル、豆乳ワッフルといちご酢サイダーの販売等ブースを設置し、大会を盛り上げて来ました。

仙台市 泉区民文化祭



泉区民の日頃の芸術文化活動の成果を発表する機会ですが、本学も泉区にある大学として、毎年参加しています。今回は、美術表現学科、スポーツ栄養研究会、ボランティアクラブ、大学・短大・高校茶道部、フォークロッククラブが参加し、様々な世代の方々に楽しんでいただきました。

水の森市民センター 地域まつり



服飾文化専攻学生の作品を展示。期間中は天候にも恵まれ、多くの市民が会場を訪れました。来場者からは、「面白い授業をやっているね」「若者らしい作品」など作品に対しての感想を頂戴するなど興味を示していただきました。

丸森町大内地区 災害復興支援ボランティア



台風19号によって大きな被害を受けた丸森町において、子ども生活専攻の学生は、被災した子どもたちの遊び相手。食物栄養学専攻の学生はおくずかけとちまきの炊き出しを行いました。

加茂中学校区学校支援地域本部 10周年記念フォーラム



食物栄養学専攻が、この記念フォーラムのためのお弁当を作製。また、フォーラムの参加者に向け、「宮城の食材を生かして～3・1・2弁当箱法の紹介」と題し、お弁当の説明等をプレゼンしました。

仙台ロフト 福袋企画



仙台ロフト＋東北学院大学「もりまちCoAL」産学連携事業と美術表現学科とのコラボ。県内のいいものを集めた福袋トートバッグのデザインを担当し、仙台恒例の初売りで、計20袋を完売しました。

「ワクワクぷろじえくと」は、webサイトならびにFacebookページで最新情報をご覧いただけます。

ワクワクぷろじえくとweb → <https://www.mishima.ac.jp/tsb/wakuwaku-project/>

本学Facebook → <https://www.facebook.com/mishima.tsb>

平塚聖子氏講演会

TSB2019講演会として平塚聖子先生の講演会を大学六号館大講義室にて、十一月九日(土)に開催いたしました。講演会の講師には、ファッションデザイナー・モデリスト・ファッションインテグニカルディレクターである平塚聖子先生をお迎えしました。平塚聖子先生は、ファッションデザイナーとのコラボレーション、ミラノ・パリ・ニューヨークでのコレクションの現地業務に従事されるなど、多彩な活動をされています。講演会では、「クリエイションとコミュニケーション」でのファッションデザインのフィールド」と題し、コレクションなどについて講演をしていただきました。また本学の東北生活文化大学の名称にちなんで、「生活」「文化」と「ファッション」との関りについてもお話いただきました。講演会には在学生の他、一般の聴講者、卒業生など、幅広くご参加いただきました。



ワクワクぷろじえくとin錦が丘ヒルサイドモール

十月二十六日、錦ヶ丘ヒルサイドモールにおいて、「ワクワクぷろじえくと」を開催。今回は、本学から四専攻の企画を実施しました。中庭ステージにおいて、子ども生活専攻による「ミシマレンジャーショー」。毎年恒例大学祭のファンタジーランドにおいて実施している学生オリジナルのショーで、この日は四回公演を行いました。もう一つは、服飾文化専攻による「ファッションショー」。こちらも大学祭において代々受け継がれている学生たちの手作りショー、こちらは一回公演行いました。両イベントとも始まる自然とお客さんたちが集まり、ショーを楽しんでいたただけです。また、館内において、食物栄養学専攻による「ちりめんモンスターを探せ！」を実施。チリメンジャコの中にまじって見つかる小さな生き物たち、チリメンモンスターを探すというもの。子どもたちは一生懸命探して、探し当てたモンスターたちを顕微鏡でチェック、楽しみながら、海の生き物を勉強してくれました。さらに、健康栄養学専攻による「匂い、味わい、食感、心で味わう和食文化」を実施。お米や味噌、塩を試食いただき、日本食に触れていただきました。お子さん連れのご家族が多いヒルサイドモールにおいて、本学の特色を活かしたステージとワークショップとなり、多くのお客様にお越しいただきました。皆さん、ありがとうございました。



保育園児が描いた東北の未来絵を現役美大生が本気でリメイク描きしてみた展

JR東日本東北総合サービス株式会社から、会社創立三十周年を機に、地域の方々と「東北」とその「未来」について考える機会として、「保育園児が描いた東北の未来絵を現役美術大学生が本気でリメイク描きしてみた展」という企画への依頼がありました。また、各種媒体への掲載、三十周年パブリシティのデザイン、そして、告知に関するポスター作成への依頼も併せてありました。

本学の生活美術学科 美術表現学科の一年次から三年次の学生たちが「東北の未来」人・駅・街」をテーマに、保育園児に描いてもらった絵を、各人が各人の描画方法でリメイク描きに挑戦。その後、仙台キャピタルタワー一階にあるリビットギャラリー(LIVITT GALLERY)JR東日本東北総合サービス株式会社で展示となり、一般の方々に見ていただきました。また、展示絵のお披露目会では、リメイク画を担当してくれた園児たちと学生たちとの楽しい時間がつづられました。本学の美術教育の実践の場としての空間が生まれ、今後の学生たちの制作意欲の向上につながる企画展となりました。

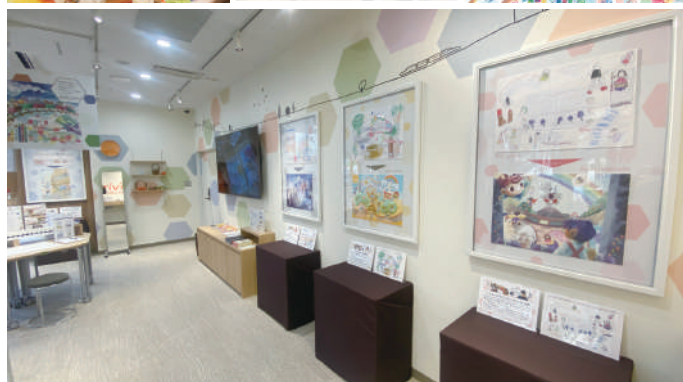


PHOTO ALBUM

(令和元年度 後期)



みやぎ県民大学開放講座

9月7日と14日、「子どもの心100歳まで」をテーマにアートや音楽等4講座を開講。参加者からは、「大変面白かつ興味深かったです。」など好評の声をいただきました。



ビジネスマナーセミナー～就活は第一印象が左右する～

10月3日、「キャリアサポート」において、第一印象研究所代表の杉浦永子氏をお招きして、「ビジネスマナーセミナー～就活は第一印象が左右する～」を開催しました。



大学祭「乱華」

10月19、20日、「乱華」をテーマに開催。初日はあいにくの天気となってしまいましたが、各種ステージ発表、ファッションショー、お笑いライブなどで盛り上げられました。



TSB公開講座「ファブリックパネルを楽しもう」

10月26日、インポート生地をパネルに貼って手軽なインテリア・アートを作りました。受講者の方々は、大満足の様子でした。



同窓会からご寄付

11月26日、三島学園同窓会から、大学祭の「同窓会の部屋」において、手作り雑貨等の売上金の一部を大学祭実行委員会にご寄附いただきました。



家政学科課題研究発表会

12月7日、日々の学びの中から興味のある研究題材を選択し、調査、研究、実験をまとめ、4年間の集大成として発表しました。



佐藤一郎 石膏素描1964-1966展

12月9日から27日、佐藤一郎学長の大学入学前時代の木炭による石膏素描約40点をギャラリーCOREにおいて、展示しました。



大学生生活スタート&保護者説明会

1月12日、開催。説明会では、学長挨拶、先輩に聞く!大学生生活紹介、入学後のスケジュール、生協加入手続案内の説明等を行いました。



みやぎベジプラスメニュー

健康栄養学専攻の食物学研究室が、野菜たっぷり、塩を控えめにしたお惣菜「大根とパプリカの甘酢漬」のレシピを考案。商品化され、4月から県内のイオン系列店舗で販売予定です。

就職支援センターから

◎高度化する社会における就職活動の準備

巷のニュースでは、相変わらず学生の売り手市場と報道されています。しかし、現場で学生の就職支援をしている立場から言わせていただくと、実感として「二極化している」と感じています。つまり、複数の企業や難関先の企業から内定を取れる学生と、なかなか内定を取れない学生に二極化しています。さらに、難関先の企業の求める人材が高度化していると感じています。これは、情報通信技術の発展に伴う仕事の高度化や、経済のグローバル化に伴う競争の激化など常に進歩しなければ市場から退場宣告を受ける厳しい経営環境のためです。

このような時代に求められる力は、「課題発見力」「論理的思考力」「絶えず学び続ける学習能力」と言われています。この求められる力は、普段の授業の中で、「講義や実験、実習、制作活動を通して、課題を発見し、その原因と解決策を論理的に考え、解決するために絶えず学び続ける」ことで身につけることができます。また、普段の学校生活＝就職活動の準備だと言えます。

普段の生活の中のさり気ない物事の中から課題発見をし、その原因と解決策を論理的に考え、解決するために学び続けることを意識するようにぜひ心掛けてください。

東北生活文化大学 東北生活文化大学短期大学部

このロゴマークは、本学の理念・目標を表現し、広く学内外にアピールするために、大学創立50周年を契機に作成し、平成22年4月1日に制定されました。東北生活文化大学・同短期大学部の英語表記の頭文字「TSB」をモチーフにし、人を結び繋ぐことがイメージされています。「広報TSB」も、保護者と大学とを結び懸け橋となることを願って命名しました。

【表紙写真】斎藤春子夫人の社交服(大学収蔵の復元衣装から)

広報TSB 第16号

〔発行〕令和2年(2020年)3月1日

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

〒981-8585 仙台市泉区虹の丘1丁目18番地の2

TEL 022-272-7520 FAX 022-301-5602

ホームページ <http://www.mishima.ac.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/mishima.tsb>

Twitter https://twitter.com/mishima_tsb